

野村委員からのご意見

1. 全体

- ・これまでの部会等でコメントさせていただいたことが考慮されている。
- ・石川県との協議の場が設定され、地域として連携を図り、整合のとれた計画を作成し、準備をすることとされたことは良いことである。
- ・今後国において具体的に示すべき、準備、調整すべき事項もあり、現時点では地域防災計画として必要なことは網羅されていると思われる。

2. 今後の課題

(1) 避難、屋内退避について

- ・放射線防護対策としての避難は、防護効果が大きく有効な対策であり、その準備をしておくことは大切だが、福島事故の例でもあるように、避難に伴う病気の悪化等、放射線のリスク（損害）とのバランスを考える必要がある。
- ・富山県の場合、発電所から比較的離れていることもあり、屋内退避も有効な防護手段となりうると思われる。事故の規模や進展状況（時間軸）にもよるが、プルームの通過時の内部被ばく等による被ばくを避けること（やり過ごす対策）は有効と考えられる。

また、放射性ヨウ素の吸入による小児甲状腺被ばくの低減対策に関する今後の検討において、ヨウ素剤の配備、服用とも関係してくるが、屋内退避も考慮されたらよいと思われる。

(2) 北陸地方の地域特性についての配慮

- ・北陸地方では近年降雪量、積雪量が減少してきているが、冬季荒天時、積雪時に対する避難に伴うリスク、防災要員の確保、モニタリング車の移動困難性等の配慮が必要かと思われる。
- ・北海道では、冬季の事故に備えてのシミュレーション、訓練を実施していると聞いている。
- ・積雪期の環境モニタリングに関しては、国が主体となって実施することになるが、航空機モニタリングも有効かと思われる。